

ピコハウスに見るDVD-Video制作 の実際

ピコハウスは、DVD-Videoの黎明期ともいえる1996年6月に、独立系としては世界で初めてDVD-Videoオーサリングスタジオを開業した老舗中の老舗である。同社は、もともとビデオパッケージ製品などのポストプロダクション業務からスタートしたが、1994年にVideo-CDのオーサリング業務へ参入し、数千タイトル以上のオーサリングに携わってきた。そして、1996年にDVD-Videoの規格が発表されるやいなや、それまでVideo-CDオーサリングで蓄積してきたノウハウを活かし、いち早くDVD-Videoオーサリング業務への参入を図り、現在まで多くの実績を積み重ねてきている。

つい先ごろまで、ピコハウスでは2台のMPEG2エンコーダーと8台のDVD-Videoオーサリングシステムで数多くのDVDタイトルを制作してきたが、増え続ける受注数に対応するため、新たなMPEG2エンコーダーの導入がなされた。今回、そのMPEG2エンコーダー導入の経緯を含め、同社のDVD-Video制作へのアプローチについて、さまざまなお話をうかがう機会を得たので、以下に紹介したいと思う。

ピコハウスの制作体制

■手掛けている主なDVDタイトル



今回お話をうかがったピコハウス制作技術部課長の本間紀久氏

ピコハウスでは毎月数多くのDVDタイトルを手掛けており、その内容も多岐にわたっているが、おおまかに大別すると映画やアニメーション、趣味教養ものなどのいわゆる市販タイトルと、店頭での展示映像や販促ツールとしての業務用タイトルに分けることができる。また、そのなかでも定期的に入ってくるレギュラータイトルと単発タイトルがあり、毎月々入ってくるもののうちおよそ半数がシリーズ色が強いレギュラータイトルであるとのこと。

その制作にかかる時間はタイトルによってまちまちで、レギュラータイトルによく見られるように基本的なシナリオ構成が似たものは比較的短時間で仕上げられる場合も多いが、単発もののなかにはそれこそ1〜2週間は平気でかかってしまう複雑なシナリオのものもあるとのこと。なかでも同社がオーサリングを手掛けたサザンオールスターズのDVDタイトル「SPACE MOSA」は、221曲にもおよぶ楽曲（ワンコーラスのみ）と歌詞に加え、マルチアングルのライブ映像や数々の特典映像など膨大な素材が、数万にものぼるリンクでつながられており、素材を受け取ってから納品まで2カ月近く費したとのこと（もっとも逆に、これだけかかっても2カ月という短期間のうちに仕上げた



ピコハウスが手掛けたDVDタイトルのは人の一部、中央にあるのが本文中で述べているサザンオールスターズの「SPACE MOSA」



ビコハウス独自のオーサリング技術であるメモリープログラム機能を搭載したレンタルビデオ店向けの業務用DVDタイトル。メニュー画面(左)で任意のタイトル数と再生順番を設定することが可能で、この1巻に収録された素材の中から、各店舗ごとに都合アビールなDVDの組合を渡すことができる(右)。ちなみにこの技術は、現在特許出願中とのこと



1人1タイトル体制を採っているため、スタッフ1人に対し1巻のDVD-Videoオーサリングシステムが用意されている



DVDオーサリングソフトには、一貫してダイキン工業のScenaristを使用している

と表現すべきかもしれない。

■一貫した制作体制

ビコハウスでは、1つのDVDタイトルの制作にあたり、オーサリングはもちろんのこと、素材のエンコーディングからメニューのデザイン、クライアントとの打ち合わせまで一貫して1人のスタッフが責任をもって担当する体制を採っている。これは、同社の「DVD-Videoオーサリング=エンコード、素材の管理、シナリオの最終チェックなどオーサリングに関わるすべてのこと」という姿勢からきており、スタッフ1人1人に高いスキルが求められるものの各作業を分担化することで生じるデメリットを解消し、高いクォリテイのDVDタイトルの効率的な制作を可能としている。

たとえば各作業を分担していると、場合によってはその作業の流れに空白が生じ仕事が中断してしまうことや、なんらかの問題が生じた際その工程の担当者がいなければ対応できず、結果的に作業が遅れてしまうことも考えられる。ビコハウスでは、スタッフ1人1人がすべての作業を熟知することで上記のような問題を回避し、作業の効率化ひいては納期の短縮化を図っ

ている。

また、1タイトル1スタッフ体制を採ることで、単に効率の面からだけでなく、シナリオをつくっている段階で、素材映像をこのあたりで切ってエンコードするとリンク先へのジャンプがより速くなり操作性が良くなるなど、すべての工程で最終仕上がりクォリテイを念頭においたオーサリングが可能となっている。

現在、今回お話をうかがった制作技術部長の本間紀夫氏を含め5人のスタッフがDVD-Videoオーサリングに携わっており、いずれの方も同社の技術力を象徴する高いスキルの持ち主である。

新たに導入されたMPEG 2エンコーダー

冒頭でも触れたように、ビコハウスでは増加する受注数に対応するため、つい先ごろ3台目となる新たなMPEG 2エンコーダーを導入した。今回白旗の矢が立てられたのは、エンコーディングを司るエンジン部分がすべてソフトウェアで構成されているカスタムテクノロジーのリアルタイムMPEG 2エンコーダー Cinema Craft Encoder Pro (以下CCE Pro) である。



CCE Proを含め3台のMPEG2エンコーダーが設置されたスペース。スタッフ各人はここでおのおのエンコーディングを行う



今回新たに導入されたMPEG2エンコーダー-CCE Proの筐体。エンコーディングエンジン自体はすべてソフトウェアで構成されている



CCE Proの操作画面。写真では少々わかりにくいですが非常にシンプルでわかりやすい構成になっており、その操作性はビコハウスのスタッフの間でも好評を得ている



ビコハウスがいままで蓄積してきた、各種エンコーダーの比較映像素材が収録されたディスクの一部。エンコーダーメーカーにとっては喉から手が出るほど貴重なもの

ビコハウスでは、いくつか挙げられていた候補の中から3台目のMPEG2エンコーダーの選定するに際して、まず第一に画質、そして効率的な作業が可能かどうか、メーカーのサポート体制はどうかなどを重視したという。なかでも一番の基本となる画質に関しては、同社がいままで実際仕事として受けた素材（フィルムやHD素材、アニメーションなどジャンルは多岐にわたっている）のなかでエンコード時にノイズなどを消すのに非常に苦労したものなどMPEG2が苦手とする素材を集め、同じ絵柄を同じビットレートでエンコードし徹底的にその画質の検証を行ったそうである。ちなみに、その際に焼かれたDVD-Rは何十枚にもなったとのこと。

また、毎月数多くのDVDタイトルをこなさなければならぬビコハウスにとって、効率面の性能も非常に重要視されたという。つまり、細かな設定を行うことであらゆる素材に対し最適なエンコードが行えるのはもちろんのこと、長時間タイトルの素材を低いビットレートで高画質に、しかも2パスVBR1回でいかに手直しの必要のないエンコーディングが行えるかという

観点からも検証が行われた。そして、上記の画質・効率両面からの厳しい条件をクリアしたのが、カスタムテクノロジーのCCE Proだったわけである。

また、スタッフ全員がエンコーディングを行う同社では、個々のスタッフの意見も非常に重要視され、前述した検証用に焼かれたDVD-Rを全員に見せて意見を募り上げるとともに、実際にデモ機でエンコーディングを行い、その操作性などに関しても全員がレポート提出し、エンコーダー選定の際の材料にしたそうである。

そのほか、今回CCE Proが選ばれた理由の1つとして、カスタムテクノロジーのサポートの迅速さも挙げられていた。なにか不明な点に対しての対応はもちろんのこと、実際に使用して出てくるさまざまな要望に対しても、可能なかぎりの対応がなされているとのこと。極端な例では、デモ機を貸し出してもらっている最中にビコハウスの要望に応じて、一度バージョンアップまで行われたという。これもエンコーディングエンジン部分がすべてソフトウェアで構成され、特定のハードウェアに依存しないCCE Proだからこそ可



オーサリングが終了したデータを収納するHOD。これをエミュレーターに接続し、動作チェックなどを行う



MPEG 2 エンコーダーには Zappex 製のものを使用している



各種メーカーのDVDプレーヤーが用意されたエミュレーションルーム



一貫したDVD-Video制作に対し、高いスキルを誇るオーサリングスタッフの面々

重要なことといえるのではないだろうか。

日々、過密なスケジュールのなか作業を行っている同社にとって、機材関連のトラブルは致命的なものになりかねない。そのような意味でも、あらゆるリクエストに対し迅速な対応を行ってくれるカスタムテクノロジーのサポート体制には心強いものがあるとのことであった。

今後の取り組み

最後に、今後のピコハウスのDVDに対する取り組みをDVD市場の動向と併せてうかがったところ、今後もDVD市場全体としては活性化の一途をたどるであろうとのことであった。ただ、DVD-Video オーサリングシステムのハイエンドとローエンドの二極化が進み、ある程度のオーサリングならば、さほどコストをかけずにシステム構築できつつある現在、DVD-Video オーサリングビジネス単体としては、ある程度のところで落ち着くのではないかとのことであった。

もっとも仮に、前述のような状況になったとしても、だれもがピコハウスのように、どのようなDVD-Videoプレーヤーでも問題なく再生でき、しっかりとし

たコピーガードを施したハイ 퀄리티の志取タイトルを作成できるわけではないので、そのような観点でもピコハウス自体は今後も評価されていくであろうという老練ならでの自信もうかがえた。

また今後ピコハウスでは、DVD-Videoはもちろんのこと、PCでの再生を前提としたDVD-ROMとのハイブリッドタイトルの制作にも力を入れていくとのことであった。

取材の傍ら、実際にオーサリング作業真っ最中のスタッフの方に、同社の1人1タイトル体制についてお話をうかがった。それによると、たしかに1つのタイトルのすべてを任せられるのは、常にスキルアップを求められ責任も重いとのこと。ただ、それだけに自分の創意工夫を担ったタイトルに盛り込め、またそれをクライアントに評価されたときの喜びは、非常に大きいという。そう語ってくれたスタッフの方の表情からも、ピコハウスの技術の高さがうかがいしれた一幕であった。

問い合わせ先：ピコハウス・企画営業部 03 (3266) 8855 URL：<http://www.pico-house.co.jp>、カスタム・テクノロジー営業部（担当：河野） 045 (472) 9060 URL：<http://www.cinemacraft.com>